

留学体験記

工学専攻 機械工学コース 李明勲

私は台湾国立中央大学からダブルディグリー(DDP)に参加しています。参加しようと思った理由は、日本の大学で研究活動に従事して自分の日本語能力を向上しつつ、海外で見識を広げたいと考えていたためでした。このプログラムでは、大学院に在学中の期間に両大学の研究室に所属して共同指導の形で研究テーマを行いつつ、両大学の修了に必要な単位を取得することで両大学の学位を取ることができます。いままで日本語で自分の研究分野や異なる領域の授業を受講することがなかったので、授業を理解することや宿題を完成することに苦戦しましたが、研究室の仲間たちや先生に質問して何とか無事にすべての単位を取得できました。先生方や同僚たちは温かく接してくれて、よく食事会や旅行に誘われて、日本での生活を満喫することができました。また、英語で行われた授業を受講したり、学校で開催された交流イベントに参加して、他の国からの留学生たちと仲良くしてもらいました。今後社会人として活躍する際に、この繋がりや人脈は強く活かされると思うので、ぜひ工学部の学生にはこのプログラムに挑戦して、世界中の様々な人と友達になってほしいと思います。



SSSV活動報告

工学専攻 電子物質科学コース 伊藤聖悟

SSSVは海外の大学の研究室との交流を通じて、外国語能力、発表討論能力、国際感覚を身に付け、将来国際的な立場で率先的に活躍できる人材の育成を目的としています。

私たちの研究室は、台湾、台北に約一週間滞在し国立台湾科技大学のChiu-Yen Wang教授の研究グループを訪問し研究、文化交流を行いました。研究発表では、研究



内容の英語での表現、討論に苦戦しましたが、受け入れ先の学生の発表討論能力の高さに刺激を受け国際的に活躍する人材のレベルの高さを知る機会となりました。また、教授、学生を交えた食事会や学生との台北市内の観光を通して学生と公私を問わず様々なコミュニケーションを取り親睦を深めました。日常的な会話では、知っている単語でも発音の癖から理解できず何度も聞き返すなど苦戦しながらも率先して交流を心掛けました。台湾では英語は主言語ではないにもかかわらず英語を話すことのできる学生が多く、学生の英語能力の高さを感じました。また、訪問した台北市の特徴として、台湾最大の都市であり日本企業の店舗が多く日本語も多く見られ、街並みや生活スタイルにも日本との共通点を多く感じました。

SSSVでの交流活動は、国際的なレベルを認識し自身の外国語能力向上を意識する貴重な機会となり、工学系の学生としてグローバルな人材への成長を考える第一歩としてとても有意義な経験となりました。

ヒコーキ部

広報担当 工学部3年 羽田圭佑

ヒコーキ部は、2001年5月に発足し、毎年、琵琶湖で行われる鳥人間コンテストでの記録更新を目指して人力飛行機の製作に取り組んでいる静岡大学公認サークルで、浜松キャンパスにて活動しています。

2018年に8年ぶりの出場を果たすも台風により大会中止、2019年念願だった琵琶湖の空を飛び、9位という記録を残しました。

自分たちが製作した機体が琵琶湖の空を飛ば姿が鳥人間の醍醐味であり、また、これを通して見てくださった方々に感動を与えたいと思っています。

残念なことに今年開催予定の「鳥人間コンテスト2020」は新型コロナウイルスの影響により中止となってしまいましたが、次回大会に出場できるように再び活動に励んでいきます。

今後も応援よろしくをお願いします！



Webアンケートのお願い

工学部の様子をより的確にお知らせし、紙面の充実を図るためにWebアンケートを実施いたします。
静岡大学工学部ホームページ>>工学部ニュースレターはまかぜのページ上の「はまかぜアンケート」よりご意見をお寄せください。
<http://www.eng.shizuoka.ac.jp/mc/1/70.html>

ご意見お問い合わせは下記へお願いします。

〒432-8561
浜松市中区城北3-5-1
静岡大学浜松総務課副課長
(工学部担当)
E-mail
engkohoh@adb.shizuoka.ac.jp